

家 庭

1 学習指導と評価の工夫・改善

普通教科「家庭」においては、人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育成することが目標とされており、①実践的・体験的な活動を中心とした学習指導、②地域や学校、生徒の実態に応じた指導、③問題解決的な学習を重視した指導の充実を図ることが求められている。

また、指導に当たっては、個に応じた指導の改善・充実を図ることが重要であり、生徒一人一人のよい点や進歩の状況等を把握し、適切な評価を行うとともに、評価の結果を指導の改善に生かすなど、指導と評価の一体化を図ることが大切である。そのためには、指導目標を明確にし、評価の観点ごとの評価規準を盛り込んだ評価計画表の作成などを通して、指導と評価の改善・充実を図ることが重要である。

2 評価方法の改善・充実

(1) 評価計画表の作成

ア 作成上の留意点

評価計画表の作成に当たっては、単元（題材）ごとに、1学期間、1年間の見通しをもって評価計画を作成し、教師による評価が意図的・計画的に行われることが大切である。また、生徒の学習状況の評価を客観的で信頼されるものにするためには、評価の考え方や評価方法等について、家庭科担当の教員をはじめ、内容の関連性の深い他教科の教員とも共通理解を図っておくことが必要である。

次に、評価計画表の作成に当たっての留意点を示す。

- 各単元で身に付ける資質や能力を明確にし、具体的な評価規準を設定する。
- 具体的評価規準は、生徒の学習の実現状況が「おおむね満足できると判断される」状況（B）を基本として作成する。
- 評価規準の内容や文言は、生徒や保護者にとって理解しやすい表現となるよう工夫する。ただし、あまりにも細部にわたる評価規準の設定は避けるようにする。
- 毎時間の授業で4つの観点すべてを評価する必要はなく、内容のまとまりごとや単元（題材）ごとに、4つの観点がバランスよく含まれるよう計画する。
- 単元（題材）によって、重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをするとともに、観定の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど、多元的に評価できるようにする。
- 指導過程のどこで、いつ、どんな観点から、どのような評価を行うかを明確にする。
- 題材については、学期ごとに評価ができるような時間配当を工夫し、学期ごとの評価が明確になるよう評価計画を作成する。

イ 評価計画表の例

科目『家庭総合』と『家庭基礎』について、「内容のまとめりごとの評価規準」と「評価規準の具体例」、及び「学習活動における具体的評価規準と評価方法」を項目として作成した評価計画表を次に示した。

科目名「家庭総合」 単元名「高齢者の生活と福祉」

科目名		家庭総合（1年生2年生 各2単位 計4単位）			
単元名		（3）高齢者の生活と福祉			
単元の目標		加齢に伴う心身の変化と特徴について理解させるとともに、高齢者の生活の現状と課題について認識させ、高齢者との適切なかかわりについて考えさせる。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準 （「家庭総合」の内容の大項目「(3) 高齢者の生活と福祉」の評価規準）		高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉、高齢者の介護などに関心を持ち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	高齢者の生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割などについて思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、高齢者と適切にかかわったり、高齢者の自立生活を支えたりするために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	高齢者の心身の特徴と生活、高齢者の福祉などについて理解し、高齢者の自立生活を支える家族や地域及び社会の果たす役割について認識するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価規準の具体例	（中項目）ア 高齢者の心身の特徴と生活	・高齢者の加齢に伴う心身の変化と特徴、高齢者の生活に関心を持ち高齢者を肯定的にとらえ、適切にかかわろうとしている。	・高齢者の心身の特徴の一般的变化と個人差に気づき、高齢者の生活の現状と課題について具体的に考えを深めている。	・身近な高齢者への聞き取り調査などを通して高齢者の心身の特徴や生活の現状について、まとめたり発表したりすることができる。	・加齢に伴う心身の変化と特徴や高齢者の生活実態を理解している。 ・高齢社会の現状と、課題、高齢者福祉の基本的な理念と近年の高齢者サービスの概要について理解している。
	（中項目）イ 高齢者の福祉	・高齢社会の現状や課題、高齢者の自立生活支援の在り方などについて考えようとしている。	・我が国の高齢化の特徴や居住地の高齢化の状況を踏まえ、高齢者福祉サービスについて具体的に考えを深めている。	・生徒の居住地の高齢化の状況や福祉サービスについて、まとめたり発表したりすることができる。	・日常的な介助の具体的な方法や留意すべきことなどについて理解している。
	（中項目）ウ 高齢者の介護の基礎	・高齢者介護の心構えやコミュニケーションの在り方について考えようとしている。	・日常生活の介助についての具体的方法や留意すべきことなどについて考えている。	・高齢者と適切にかかわることができる。	・高齢者に対する共感の大切さを、理解している。
学習活動における具体的評価規準と評価方法	ア 高齢者の心身の特徴（4時間） ・1時間目 ・2時間目 ・3時間目 ・4時間目	①高齢者への手紙を書くことを通じて高齢者の生活に関心を持ち、積極的にかかわろうとしている。	①老化には個人差が大きく、高齢期の段階における介護の必要度は一律にとらえることが難しいことに気付くことができる。	①身近な高齢者への聞き取り調査などを通して高齢者の心身の特徴や生活の現状について、まとめたり発表したりすることができる。 ②高齢者への手紙に高齢者の心身の特徴に対して理解したことが書かれている。	①加齢に伴う日常生活動作や、運動機能などの変化を理解することができる。 ②心理的特徴について加齢に伴う一般的な変化の傾向を理解することができる。
	イ 高齢者の福祉 ウ 高齢者の介護の基礎	②高齢期の生活を豊かにするために、地域社会とのかかわりについて考えようとしている。 ◎ワークシート	②疑似体験を通して、高齢者の心身の特徴や生活上の課題について具体的に考えを深めている。 ◎疑似体験プリント※2	③疑似体験を通して、高齢者の身体の状態や生活活動上の課題をまとめたり発表することができる。 ◎観察（発表） ◎手紙	◎定期テスト（学期末） ○ワークシート ◎ワークシート ◎定期テスト（学期末）

注1：◎ 単元の評価の総括の資料とする。

○ 単元の評価の総括の資料としない。

注2：※1～【関心・意欲・態度】を評価するワークシート（高齢者への手紙の要旨）の具体例（P76）

※2～【思考・判断】を評価する疑似体験プリントの具体例（P77）

※3～【技能・表現】を評価するインタビュー用紙の具体例（P78）

科目名「家庭基礎」 単元名「(3) 消費生活と環境」

科目名		家庭基礎(1年生2単位)			
単元名		(3) 消費生活と環境			
単元の目標		家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。			
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
内容のまとめりごとの評価規準準(「家庭基礎」内容の大項目(3)消費生活と環境の評価規準)		家庭の経済と消費、消費行動と環境などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費生活と環境のかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して思考を深めている。	実践的・体験的な学習活動を通して調査・研究し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭の経済と消費、消費行動と環境について理解し、消費者として責任をもって行動するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価規準の具体例	(中項目) ア 家庭の経済と消費	・家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心をもち、適切な意思決定や消費行動について考えようとしている。	・消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えを深めている。	・社会の変化に伴う家計の管理や消費生活の課題について具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。	・家計の管理、家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解している。 ・消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。
	(中項目) イ 消費行動と環境	・消費生活と環境とのかかわりについて関心をもち、環境負荷の少ない生活について考えようとしている。	・環境負荷の少ない生活を目指し、具体的な事例を通して生活意識や生活様式を見直している。	・環境負荷の少ない生活を目指し、消費生活と環境とのかかわりについて検討することができる。	・消費生活と環境とのかかわりについて理解している。
学習活動における具体の評価規準と評価方法	ア 家庭の経済生活(3時間)	①家庭の経済生活、社会の変化と消費生活、消費者の権利と責任について関心をもち、適切意思決定や消費行動について考えようとしている。 ◎ワークシート	①契約・消費者信用などに触れVTR視聴やワークシート記入を通して消費生活の現状と課題について考えを深めている。 ◎VTR視聴プリント ◎ワークシート	(評価規準の設定なし)	①家計の管理、家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解している。 ◎ワークシート
	イ 社会の変化と消費生活(2時間)	②調べ学習を通して適切な意思決定や消費行動の責任について関心をもち、 ◎調べ学習プリント	(評価規準の設定なし)	① 社会の変化に伴う家計の管理や消費生活の課題について、具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 ◎調べ学習プリント ◎観察(発表)	(評価規準の設定なし)
	エ 消費者の権利と責任(2時間)	(評価規準の設定なし)	②消費者として主体的に判断できるようになるために、消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任について考えを深めている。 ◎レポート	②社会の変化に伴う家計の管理や消費生活の課題について、具体的な事例を調査・研究したり、発表したりすることができる。 ◎レポート ◎観察(発表)	②消費生活の現状と消費者の権利と責任について理解している。 ◎ワークシート ◎小テスト
	イ 消費行動と環境				

注1:◎ 単元の評価の総括の資料とする。 ○ 単元の評価の総括の資料としない。

(2) 観点別評価の進め方

ア 考え方

評価を行うに当たっては、生徒が教科の目標や内容のまとめりごとの目標等を、どの程度実現したかなど、進歩の程度を明らかにすることが大切であり、「おおむね満足できると判断される」状況(B)で設定した具体の評価規準をもとに、生徒の学習状況の評価する。特に、質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときには、「十分満足できると判断される」状況とし、評価(A)とする。また、「努力を要すると判断される」状況の生徒については、評価(C)とし、補充的な指導や適切な支援を授業中に適宜行ったり、授業後において行うなど、指導の手だての工夫が必要で

ある。その手だてにより進歩が見られた場合は、評価（C）から評価（B）への修正が行われることもあり得る。その際の修正は、当該単元（題材）にさかのぼって再評価される場合や、次の単元（題材）の評価に再評価を反映させる場合などが考えられる。次に、観点別評価を進める上での評価方法の具体例を、『家庭総合』を取り上げて述べるが、『家庭基礎』『生活技術』についても同様に考えることができる。

イ 評価方法の具体例

(ア) ワークシート(高齢者宛手紙の要旨)による【関心・意欲・態度】の評価について
[具体の評価規準及び評価の観点]

「高齢者への手紙の要旨を書くことを通して高齢者の生活に関心をもち、積極的にかかわろうとしている」【関心・意欲・態度】①

[評価方法]

ワークシート(高齢者への手紙の要旨)の記述の点検・分析

[評価の実際]

- ・ 3時間目に実施し、4時間目に実際の手紙に表し【技能・表現】の評価方法へつなげる。
- ・ 自分の意見や考えが手紙の要旨中にまとめられているかの記述を授業中における机間指導により点検し、授業後に提出させ、ワークシートの記述を分析することで評価する。

[留意事項]

- ・ 【関心・意欲・態度】を評価する場合は、複数の評価の機会を設ける。
- ・ 高齢者に対してのいたわりや感謝の気持ちが書かれ、高齢者の生活にかかわろうとしていることが手紙の要旨にまとめられている場合は、評価（A）とする。
- ・ 評価（C）の生徒への手だてとしては、本人の家庭環境等を踏まえ、高齢者に関する新聞記事や、高齢者からのお礼の手紙の事例などを提示し、関心を持たせるよう働きかけ、手紙の要旨が書き上げられるよう個別指導する。

《ワークシート(高齢者への手紙の要旨)の具体例》

<p>高齢者への手紙の要旨</p> <p>●下記の項目に沿って、手紙の要旨をまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の相手 () 様 ・相手の住所 () 市・町・村 ()) ・時候の挨拶 () の候 ・自己紹介 ()) ・内 容 <ol style="list-style-type: none"> 1 年齢を重ねていくことについて 2 介助について 3 将来を担う若者としての抱負について <p>● [自己評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方へ敬意を表して書きましたか。 (A ・ B ・ C) ・高齢者の方の生活に関心をもって書きましたか。 (A ・ B ・ C) ・高齢者と積極的にかかわろうという考えが文中に書かれましたか。(A ・ B ・ C) 	<p>____年 ____組 ____番 氏名_____</p>
---	----------------------------------

(イ) 高齢者疑似体験プリントによる【思考・判断】の評価について※2

[具体の評価規準及び評価の観点]

「高齢者疑似体験を通して、高齢者の心身の特徴や生活上の課題について、具体的に考えを深めている」【思考・判断】②

[評価方法]

高齢者疑似体験プリントの記述の点検・分析

[評価の実際]

- ・5時間目を実施し、6・7時間目の発表における【技能・表現】の評価や【知識・理解】の定着へつなげる。
- ・高齢者役と介助役の2人一組交代で、生活場面を想定した箇所で行動する。
- ・高齢者役の場合は疑似体験用品具（アイマスク・腰のおもり・手足関節の固定など）を身に付けた体験から、高齢者の身体の特徴や心情の動きの記述がされているか、介助者役の場合は高齢者役の生徒の動作から、高齢者の心身の特徴や介助の実際を記述しているか、机間指導により点検する。
- ・提出は次の授業までとし、2人の意見交換の時間をもてるよう配慮し、提出後のプリント記述の分析を行うことで評価する。

[留意事項]

- ・高齢者役や介助者役に積極的に取り組み、疑似体験が高齢者の身体の特徴の実感につながり、介助する側される側の現実感を伴った記述となっている場合は、評価（A）とする。
- ・評価（C）の生徒については、再度、疑似体験を行い、生活日常動作を行う中で感じたことを口述させるなどして、高齢者の身体の状態をとらえさせ、課題を見つけ出せるよう援助する。

《高齢者疑似体験プリントの具体例》

高齢者疑似体験をしよう		_____年_____組_____番 氏名_____
方法	・2人一組をつくり、高齢者役と介助者役になろう。 ・指定されたコースの順に指定された動作を体験する。 ・終了後、2人で感想を述べ合い記述する。	注意点 ・開始順には時間差をつける。 ・介助者は危険がないよう指示の出し方や歩き方、高齢者の気持ちを考えて誘導する。
介助のポイント	介助者の肘あたりを高齢者の左手で後部からしっかりつかんでもらい、相手の歩調に合わせ、半歩ほど先を歩く。また、高齢者の身体の状態に応じて自主性を尊重し、介助の程度を考える。危険な所や障害物があったら、その都度早めに「〇〇ですから左に曲がります」「段差があります」の言葉かけをする。常に声かけを忘れないようにする。	
体験コース	教室→A棟廊下→階段で1階に降りる→1階トイレ（用を足す・手を洗う）→ →家庭科調理実習室（コンロの着火・消火を試す） 交代 逆のコースで教室へ戻る。	
1 高齢者役になった感想	2 介助者役になった感想	3 危険と思った場所について ・教室 ・廊下 ・階段 ・トイレ ・調理実習室 ・その他
● [自己評価] ・高齢者の方の心身の特徴を体験できましたか。 (A・B・C) ・高齢者の方の介助について考えることができましたか。 (A・B・C) ・高齢者の生活上の行動で課題を考えることができましたか。 (A・B・C)		

(ウ) インタビュー用紙による【技能・表現】の評価について※3

[具体の評価規準及び評価の観点]

「身近な高齢者への聞き取り調査などを通して、高齢者の心身の特徴や生活の現状についてまとめたり、発表することができる」【技能・表現】①

[評価方法]

インタビュー用紙の記述の点検・分析及び教師の評価補助簿

[評価の実際]

- ・ 1 時間目に説明を聞き、インタビュー内容を把握し、各自で調査する。
1 分間報告は 2 時間目に実施し、【技能・表現】の評価を行う。
- ・ 高齢者に対して質問項目に沿ったインタビューができるように、事前の説明においてコミュニケーションの取り方についても指導するとともに、記録の方法についても説明を行う。
- ・ 高齢者の方へのインタビュー用紙の自由質問については、高齢者の心身の特徴や生活の場面を想定した作成になっているか、机間指導により点検する。
- ・ 提出は次の授業までとし、十分インタビューができる期間を設けるよう配慮し、提出後のインタビュー用紙の記述の分析を行うことで評価する。

[留意事項]

- ・ 高齢者の心身の特徴や生活の現状について、高齢者からのインタビューが取れており、質問項目以外の情報などが正確に記録され、まとまった 1 分間の報告ができた状況を、評価 (A) とする。
- ・ 評価 (C) の生徒については、学校近隣の高齢者へ依頼し、一緒に出向いてインタビューが行えるよう促し、記録がとれるよう個別指導する。

《高齢者へのインタビュー用紙の具体例》

<p>高齢者の方へのインタビュー用紙 調査日 (/) ____年__組__番 氏名____</p> <p>近隣の高齢者の方から生活実態を教えてください！ [答えてくださった方：年齢 ____ 歳の男性・女性]</p> <p><質問項目></p> <p>(1) 若い時にはできなかったけれども、今ならできることは何ですか。</p> <p>(2) 今、生活していて楽しいこと、または生きがいは何ですか。</p> <p>(3) 健康のために、何か行っていることはありませんか。</p> <p>(6) 睡眠時間は、一日何時間位ですか。</p> <p>(7) 現在お住まいの家について、生活していて困ったり危ないと思われた所はどこありませんか。</p> <p>(8) 私たち高校生が何かお手伝いできることはありませんか。</p> <p>() 自由質問※自分で質問を考えて記述しましょう。</p> <p>・ インタビューを行った感想を書きましょう。</p>

《教師の評価補助簿の具体例》

出席番号		氏名		学習内容（高齢者の心身の特徴と生活）の評価補助簿														特記事項 (生徒のよい点) (生徒が力を付けた点など)				
				【観点】		【関心・意欲・態度】			【思考】			【技能・表現】				【知識・理解】			※	1・3・4 時間分	評 価	
				1	3	1	3	4	5	6	1	3	1	2	4	5	6					7
1	M	観察	1	3	4	5	6	1	3	1	2	4	5	6	7	2	7	※	1・3・4	評		
2	I	観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		価
3	N	観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4	O	観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
5	P	観察	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
38	X	総括	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
39	Y																					
40	Z																					

注1：◎ 単元の評価の総括の資料とする。 ○ 単元の評価の総括の資料としない。

(エ) 【知識・理解】の評価について

具体的評価規準③「高齢者の充実した自立生活を営むための基盤として、所得と労働について理解することができる」については、年金や介護保険等の制度および高齢者福祉との関連を考え、所得や労働の実態を理解している場合は、評価（A）とする。また、評価（C）の生徒については、経済的自立が高齢者の生活にとって重要であることを、前時間までのアンケート調査やインターネットからの情報を活用させるなどして考えさせ、理解できるよう個別指導する。

(3) 観点別評価の総括

観点別学習状況については、個々の評価規準に照らして、学習の実現状況を評価し得られた評価結果を基に、単元（題材）全体の実現状況をまとめ、さらに学期や学年といった単位で学習の実現状況をまとめていくことになる。したがって、観点別学習状況の評価のための総括の場面としては、

- (1) 単元（題材）における観点ごとの評価の総括
- (2) 学期末における観点ごとの評価の総括
- (3) 学年末における観点ごとの評価の総括

の、3段階であることが多いと考えられる。なお、評定への総括については、

- ① 各単元（題材）ごとの観点別学習状況の評価から学年末の観点別学習状況を出し、学年末の評定に総括する場合
- ② 各学期の観点別学習状況の評価結果から、学年末の観点別学習状況の評価を出し、学年末の評定に総括する場合
- ③ 各学期の観点別学習状況の評価結果から、各学期末の5段階評価を出し、学年末の評定に総括する場合 なども考えられる。

重み付けを配慮した評価の総括については、専門教科「家庭」（P 118）に示す。次に、評価計画表作成から学年末評定への総括まで、一連の流れを示した。

《図》 評価計画表作成から学年末評定までの評価の進め方（例）

①学習指導要領・解説による科目目標・単元目標の分析

・学習指導要領および学習指導要領解説書をもとに、各科目で育てる資質・能力を明らかにするとともに、単元（題材）で身に付けさせたい資質・能力は何かを明確にし、それらを指導目標として設定する。

②家庭科指導項目・指導内容の検討

・家庭科の指導項目や指導内容については、他教科の指導項目や指導内容との関連を把握し、精選を図るなどの検討をする。

③単元（題材）の指導計画の作成
③単元（題材）の評価計画の作成

・目標設定や具体的学習活動の検討を行う。
・評価規準の設定や学習活動における具体的評価規準の設定、および評価場面と評価方法の具体化、「十分満足できる」状況の明確化などを行う。
(国立教育政策研究所「評価規準作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」を活用する。)

④授業の実践・展開

・授業を行う。事前の評価方法により評価を行う。
※形成的評価を取り入れた評価活動を工夫する。

⑤単元（題材）における観点別評価の総括（点数化して総括する方法）

ア 毎時間における観点別評価を(A)(B)(C)で評価する。
イ アの評価を例えば「(A)3点(B)2点(C)1点」として点数化して合計および平均点を出す。
※配点は「(A)5点(B)3点(C)1点」や、「(A)2点(B)1点(C)0点」としてもよい。
総括例① 平均点2.6以上は(A)、2.5~1.6は(B)、1.5以下は(C)など決めておき、単元（題材）ごとの観点別評価の総括を行う。
総括例② 「満点の○○%以上は(A)とする」などと定めておく。

《具体例》家庭総合「高齢者の心身の特徴と生活」におけるMさんの評価
「(A)3点(B)2点(C)1点」として点数化して合計および平均点を出し、総括例①で総括した例

番号	生徒氏名	1時間目				2時間目				7時間目			
		関	思	技	知	関	思	技	知	関	思	技	知
1	M	A	B	—	B	—	A	A	B	—	B	B	B
2	N	B	B	—	A	—	A	A	B	—	B	A	A
3	L	A	B	—	A	—	B	A	A	—	A	A	A
38	Y	A	A	—	B	—	B	B	A	—	A	B	B
39	X	B	A	—	B	—	A	B	B	—	B	B	B
40	Z	A	A	—	A	—	B	B	B	—	B	A	B

授業時間(氏名)	1	2	3	4	5	6	7	合計点	平均点	単元(③)の評価の総括
関心・意欲・態度	A	—	B	A	A	A	—	14	2.8	A
思考・判断	B	A	A	—	B	B	B	14	2.3	B
技能・表現	—	A	—	A	B	A	B	13	2.6	A
知識・理解	B	B	B	B	—	—	B	10	2.0	B

⑥学期末および学年末における観点別評価の総括（評定への総括の方法）

ア 各単元（題材）ごとの観点別評価を記入する。
イ アの評価を例えば「(A)3点(B)2点(C)1点」として点数化して合計および平均点を出す。
ウ 平均点2.6以上は(A)、2.5~1.6は(B)、1.5以下は(C)などと決め、各4観点の評価を総括する。

エー① 学期末にまとめ、点数化して総括する方法

評定	5	4	3	2	1
平均点	12点	11~10点	9~8点	7~6点	5~4点

※平均点の区分については各学校で設定する。

エー② 作成パターンから判断し総括する方法

観点別学習状況の評価の組み合わせ	判断のしかた	評定
AAAA・AAAB	十分満足できると判断させるものうち特に程度の高いもの	5
AAAC・AABB・ABBB	十分満足できると判断されるもの	4
AACC・AABC・ABBC・BBBB	おおむね満足できると判断させるもの	3
ABCC・BBBC・ACCC・BBCC	努力を要すると判断されるもの	2
BCCC・CCCC	一層努力を要すると判断されるもの	1

※各観点ごとの(A)(B)(C)が決まれば評定も必然的に決まるものではないと考えられる。各学校において観点ごとの重み付けが違ったり、同じ(A)(B)(C)の評価結果についても、その実現状況には幅があり、このことが評定への総括に反映されることも想定されるからである。

《具体例》 Mさんの学年末評定への総括

氏名	単元	①	②	③	④	⑤	合計	平均点	総括	合計
M	関心・意欲・態度	A	A	A	B	A	14	2.8	A	10点
	思考・判断	B	A	B	B	B	11	2.2	B	
	技能・表現	B	A	A	B	A	13	2.6	A	
	知識・理解	B	B	B	B	A	11	2.2	B	

エー①の方法
⇒ 4

エー②の方法

4

⑦年度末評定の決定・公表